

次期生物多様性国家戦略研究会報告書 骨子案に対する意見・コメントと対応

骨子案（修正後反映版）	意見・コメント	対応
<p style="text-align: center;">次期生物多様性国家戦略研究会報告書 骨子案</p> <p>0. 目指すべき自然共生社会像（1 ページ）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2050 年「自然との共生」に向けて、<u>目指すべき社会像や状態のイメージ</u> <p>1. 次期生物多様性国家戦略の柱となる社会変革に向けた<u>3つのポイント</u>（2 ページ程度）</p> <p>※「1.」では、生じている課題と問題意識を記述。</p>	<p>■「目指すべき社会像や状態のイメージ」</p> <p>・生態系・生物多様性と社会経済・暮らしなどが関連した社会—生態システムを、基本的な概念として紹介し、1 節以降の議論につなげていくことが大事だと思います。</p> <p>■「3つのポイント」</p> <p>全体として共感する内容が多く（人口減少社会との関連、ビジネスや社会経済とのリンク等々）、意義深いものと受け止めました。以下のような視点も重要では。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○大都市・地方都市・農山村を含む空間的な構造の中での人々の居住や都市・地域のデザイン（～経済循環）のあり方、 ○健康ないし well-being との関連（自然とのつながりが心身の健康に寄与し医療費等の節減にも貢献（長野など） etc.） ○サステイナブル・ツーリズムなどを通じた地域再生、地方創生への寄与 ○日本の伝統文化との関連や国際的意義（上記の「鎮守の森」も含め、共生的な自 	<p>→素案に要素を反映</p> <p>→素案に要素を反映</p>

骨子案（修正後反映版）	意見・コメント	対応
<p>(1) <u>大きく変化する社会情勢への対応と貢献</u></p> <p>—人口減少社会・気候変動に適応した自然を生かした社会的課題解決の視点の強化（仮）—</p> <ul style="list-style-type: none"> 人口減少は、開発圧の減少により生物多様性の損失の回避にプラスの影響をもたらす一方で、人による働きかけにより形成・維持されてきた里地里山に生息・生育する野生生物の生息・生育環境の消失や、生息域を拡大する鳥獣との軋轢の激化など、マイナスの側面もある。特に担い手の不足への対応や新たな管理の在り方の構築は次の10年間の大きな課題。 人口減少により生じた空間的余裕は、自然生態系を活かした防災減災等、自然を生かした社会的課題解決を進めやすくする要素となりうる。 	<p>然観・生命観（課題もあり）</p> <p>■ 修正意見</p> <p>「<u>人口減少社会への対応と・気候変動に適応した</u> 自然を生かした…」</p> <p>■ 「(1) 大きく変化する社会情勢への対応と貢献」のタイトル・内容</p> <p>課題と問題意識として「人口減少」のみが取り上げられているように読めますが、「気候変動」も同程度、明示的に取り上げる必要があると思います。</p> <p>社会変革・ビジネスに結び付けたいがために、社会情勢を代表する「人口減少」を強調したのだと思いますが、「人口減少」だけでは、防災・減災（Eco-DRR、グリーンインフラ）に結び付きません。</p> <p>たとえば、</p> <p>1. (1) 大きく変化する社会情勢への対応と貢献— 気候変動への適応を見据えて—</p> <p>—人口減少社会のもつ課題解決の視点の強化— 気候変動への適応を見据えて—</p> <p>2. 3つのポイントにおける取組の方向性 (1) 大きく変化する社会情勢への対応と貢献— 気候変動への適応を見据えて</p>	<p>→ 素案に要素を反映</p> <p>→ 上に同じ（素案に要素を反映）</p>

骨子案（修正後反映版）	意見・コメント	対応
<p>・次の10年間は<u>集中型か分散型か</u>の分かれ目となるとの指摘もある10年間。この次の10年間に、人口減少・<u>気候変動</u>×自然を生かした社会的課題の解決の道筋をつけることが重要。</p> <p>（2）社会変革に向けた主流化</p> <p>－<u>ビジネスと生物多様性の好循環とライフスタイルの転換（仮）</u>－</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接要因への対応だけでは生物多様性や生態系サービスの損失・劣化は止められないことから、社会経済の在り方、<u>生産と消費の双方での</u>ライフスタイルと深い関係にある間接要因への対応が大きな課題。これを避けては自然との共生は達成することができない。 ・生物多様性の損失は、ビジネスのリスクであると同時に、持続可能性の確保は企業価値創造のチャンス。このため、ビジネスと生物多様性の好循環に向けた主流化が不可欠。 ・また、社会変革（<u>トランスフォーマティブ・チェンジ</u>）においては、<u>個人や社会の行動（振る舞い）と価値観を変えていく</u>ことが不可欠。 	<p>—</p> <p>というようなタイトルにして、気候変動適応が必須であることを、1章でも、2章でも、明示してはどうでしょうか。長期を見据えて、直近10年の対応を考える、という位置づけです。</p> <p>■「集中型か分散型か」 この傾向に COVID-19 が影響をするという視点が必要か</p> <p>■「集中型か分散型か」 分散型社会のメリット・課題解決を重視しつつ、集中型社会のメリットも適度に活かすような、バランスが大事だと思います。</p> <p>■<u>修正意見</u> 「人口減少・<u>気候変動</u>×自然を生かした」</p> <p>■<u>修正意見</u> 「、社会経済の在り方や、<u>生産と消費の双方での</u>ライフスタイル」</p> <p>■<u>修正意見</u> 「、社会変革（<u>トランスフォーマティブ・チェンジ</u>）」</p> <p>■「個人や社会の行動（振る舞い）と価値観を変えていく」</p>	<p>→<u>来年度前半に議論</u></p> <p>→<u>素案の議論の中で検討したい</u></p> <p>→素案に要素を反映</p> <p>→素案に要素を反映</p> <p>→素案に要素を反映</p>

骨子案（修正後反映版）	意見・コメント	対応
<p>(3) 効果的な施策の実施を支える仕組みの構築</p> <p>—国家戦略の構造、特に目標と評価指標の見直しと、シナジーを生む施策の提示（仮）—</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会変革に向けた主流化を進めるためには、現行国家戦略の課題であり、生物多様性施策の課題でもある「わかりにくさ」「具体的な行動・アクションへの結びつきにくさ」や「様々な取組が目標に対してどの程度貢献しているのかの（定量的な）把握が困難であること」を改善することが極めて重要。 ・また、自然を生かした社会的課題解決を図る上で、国レベルから地域レベルまで様々なレベルにおいて、生物多様性関連施策間の連携強化や、それ以外の施策や民間、学术界等との連携が極めて重要。 ・このため、現行国家戦略の構造を変え、とりわけわかりやすい目標の設定と評価指標の見直しを行うこと、シナジーを生む施策の例示を行うことが必要。 <p>2. 3つのポイントにおける取組の方向性（6～7ページ）</p> <p>※「2.」では、施策の方向性を提示。</p> <p>(1) 大きく変化する社会情勢への対応と貢献（1ページ）</p>	<p>企業の活動や流通が、個人の消費や投資、行動の選択にも結びつくため、ビジネスと個人の消費、社会変革との関連性についても言及が必要か。</p> <p>■ 修文意見</p> <p>「「わかりにくさ」「具体的な行動・アクションへの結びつきにくさ」や「様々な取組が」</p> <p>「どの程度貢献しているのかの（定量的な）把握が困難…」</p> <p>■ 「わかりやすい目標」</p> <p>わかりやすさには、生物多様性の分野に敏感な層と鈍感な層（無関心層）がいることを認識しておくべき。これまでの情報提供や働きかけは、関心を持ちそうな層のみを見ていなかったか。</p> <p>■ 修文意見</p>	<p>→ 素案に要素を反映</p> <p>→ 素案に要素を反映</p> <p>→ 素案に要素を反映</p> <p>→ 素案に要素を反映</p>

骨子案（修正後反映版）	意見・コメント	対応
<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少や気候危機を踏まえた土地利用の見直し、<u>都市の生物多様性の活用、防災減災の推進（Eco-DRR）</u> ・地域づくりに対する生物多様性からの貢献（国立公園満喫、<u>遺産・MAB</u>を含む） ・人と野生生物の適切な関係の構築（鳥獣被害対策、ワンヘルス） ・地下資源依存から地上資源利用へのシフト（バイオエコノミー） <p>（2）<u>社会変革に向けた主流化</u>（1ページ）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・持続可能なビジネスのための生物多様性リスク・マネジメントと保全効果の追及 ・社会経済活動への組み込み（ESG 金融推進のための情報開示、基準作り） ・持続可能な生産と消費（サプライチェーンによる悪影響の削減、バリューチェーンおける製品・サービス、ソリューションを通じた負の影響の削減、<u>認証品・地理的表示等の流通量増加など</u>） ・生物多様性への行動（認識、教育、各種計画）、<u>アイディアの源としての遺伝資源の活用、バイオミメティクスの認識</u> ・生物多様性に配慮した持続可能な農林水産業 	<p>「<u>土地利用の見直し</u>、<u>都市の生物多様性の活用、防災減災…</u>」</p> <p>「<u>（国立公園満喫、遺産・MAB）を含む</u>」</p> <p>■「（2）社会変革に向けた主流化」 今の骨子でも、どこかで入る問題だと思うのですが、研究会でやった金融関係の動きや最近のグリーンボンドなどの動きをどの部分で入れ込むかを、あらかじめ考えておいたほうがいいのではないかと思います。私は、主流化のところでも述べておくべきかもしれないと思いますが、仕組みの構築のところでも、きちんと書いたほうがいいのではないかと思います。</p> <p>■修文意見 「<u>認証品・地理的表示等の</u>」</p> <p>「…計画）、<u>アイディアの源としての遺伝資源の活用、バイオミメティクスの認識</u>」</p>	<p>→素案に要素を反映</p> <p>→素案に要素を反映</p> <p>→素案に要素を反映</p> <p>→素案に要素を反映</p> <p>→素案に要素を反映</p> <p>→素案の議論の中で検討したい</p>

骨子案（修正後反映版）	意見・コメント	対応
<p>(3) <u>効果的な施策の実施を支える仕組みの構築</u>（4～5ページ）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 構造の明確化：アウトカム（状態）とアウトプット（行動）を区別し、わかりやすい目標設定とそれに対応する指標の設定 ・ 施策間のシナジーを生む方策：シナジー効果のある施策（国土レベルから地域レベルまで）の提示・例示、ランドスケープアプローチの推進、シナジー効果に関する指標の設定 ・ 様々な主体の参画促進：<u>OECS</u>、企業・各種組織・個人等の行動・努力を積み上げられるような指標作成 ・ 具体的な目標設定と指標：研究会の各回で議論した目標・指標例をベースに国家戦略において組み込むことが想定される目標・指標案を提示 <ul style="list-style-type: none"> 第3回：人口減少下での国土利用のあり方と自然と共生した安心・安全な地域づくり 第4回：身近な地域から地球規模までの自然資源利用における持続可能性の確保 第5回：生存基盤である生態系のレジリエンス確保と新たなリスクへの対処 第6回：身近な暮らしに提供される自然の恵みの確保と自然に配慮したライフスタイルへの転換 第7回：ポスト2020生物多様性枠組を踏まえた、自然共生社会の実現に向けた方策と基盤整備の取りまとめ 	<p>■「効果的な施策の実施を支える仕組みの構築」</p> <p>仕組みのところですが、生態系サービスの支払い（PES）のこともきちんと述べておくのが良いと思います。このことは、都市と周辺地域の生態系サービスに関する受益と負担の問題として、コロナにもかわると思いますし、すでに動いている仕組みも増えていることなどから、どこかできちんと述べたほうが良いのでは、と思いました。</p> <p>■ 修文意見</p> <p>「…<u>参画促進</u>：<u>OECS</u>、企業・各種組織…」</p>	<p>→ 素案に要素を反映</p> <p>→ 素案に要素を反映</p>

骨子案（修正後反映版）	意見・コメント	対応
<p>・ 様々な主体の努力を積み上げる仕組み：（地域戦略による取組の積み上げや、ネットを通じた民間の努力（取組の実施状況）の報告・提案制度など。様々な取組の把握の効率化と範囲を広げる試み。ご報告いただいた分は、環境省ウェブサイトやポスト UNDB-J のウェブサイトで発信。）</p> <p>・ <u>モニタリング・評価および施策への反映</u></p> <p>3. <u>3つのポイント以外の重要な視点</u>（1～2ページ）</p> <p>・ 生物多様性への不可逆的な影響の回避のため、種の絶滅を将来にわたり回避するレジリエントな生態系の構築</p> <p>・ <u>アイディアの源としての遺伝資源の活用、バイオミメティクス</u></p>	<p>■ 修文意見 「<u>モニタリング・評価および施策への反映</u>」の追記 アウトプット・アウトカムでのモニタリング（生態系、生物多様性、社会経済などの状態変化）と評価をおこない、施策の構造や内容を点検・見直ししていくことも、効果的な施策の実現に到達するために重要なステップだと思いますので、追加できないでしょうか。</p> <p>■ 「<u>3つのポイント以外の重要な視点</u>」 見出しとして「<u>・・以外の</u>」という表現は魅力がないので、この節に含まれる内容を俯瞰的にとらえられるようなキーワードでまとめてはどうか。持続可能、社会—生態システム、自然共生などの用語が候補になると思います</p> <p>■ 修文意見 「<u>アイディアの源としての遺伝資源の活用、バイオミメティクス</u>」の追記</p>	<p>→ 素案に要素を反映</p> <p>→ 素案では「自然共生社会構築に向けた基盤としての生物多様性の確保」とした</p> <p>→ 素案の議論の中で検</p>

骨子案（修正後反映版）	意見・コメント	対応
<ul style="list-style-type: none"> ・ 生物多様性がもたらす豊かな生活や幸福の追及 ・ <u>気候変動への抵抗性も確保する疑似面的な、階層的な保全対策の強化</u> ・ <u>アウトカム評価につながる基礎的調査の充実、各種モニタリング情報等の統合化・提供、効率かつ効果的な調査技術（AI 含む）の開発・実施</u> など 	<p>■「気候変動への抵抗性も確保する疑似面的な、階層的な保全対策の強化」 すいません、ちょっと分かりづらいです</p> <p>■「アウトカム評価につながる基礎的調査の充実」 自然科学と社会科学の融合した調査研究の充実も必要</p> <p>■「アウトカム評価につながる基礎的調査の充実、各種モニタリング情報等の統合化・提供、効率かつ効果的な調査技術（AI 含む）の開発・実施」 科学と政策の連携強化（エビデンスに基づく政策）や知識ギャップ（もとめられる知見、手法開発など）を、4節として分けてまとめる方が良いと思います。3節の中だと、まとまりが弱くなってしまいそうです。</p>	<p><u>討したい</u></p> <p>→素案の中で改善</p> <p>→素案の「(3) 生物多様性関連目標のわかりやすさの追求」に要素を反映</p> <p>→素案の議論の中で<u>検討したい</u></p>

骨子案（修正後反映版）	意見・コメント	対応
<p>＜検討の積み残し事項＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>新型コロナウイルス感染症を踏まえた自然共生社会と生物多様性関連施策</u> ・ 2050年カーボンニュートラルを踏まえた生物多様性・生態系サービスからの貢献等について、令和3年度前半にさらに議論し（調整中）、本報告書に盛り込みたい。 	<p>■「<u>新型コロナウイルス感染症を踏まえた自然共生社会と生物多様性関連施策</u>」 今後の議論で取り上げる予定の話題かもしれませんが、やはり新型コロナとの関連はかなり重視してよいのではないかと思います。</p>	<p>→ <u>来年度前半に議論</u></p>